

タイトル：

## 思い出プロジェクト始動！！ ～ご利用者とご家族の思い出づくり～

キーワード ※3つ記入。

思い出に残るサービス	法人名	社会福祉法人 北海道友愛福祉会
嬉しい・楽しい・美味しい	施設種別	特養
ファン化	施設名	静苑ホーム

研究者 (取組に関わった方のお名前5名まで)	氏名	職種	備考
	① 小西 浩平	生活相談員	
	② 菅井 小夏	介護士	
	③ 大川 高幸	管理栄養士	
	④ 木澤 季久	介護士	
	⑤ 大堀 優花	介護士	

### 施設の概要

※ここに記載した内容のうち、発表内容に直接重要な関係を持たない事項については、本資料をもって発表の際の説明から省略してください。

設置主体	社会福祉法人	経営主体	社会福祉法人
開設年月日	昭和48年12月25日	所在市町村	江別市
市町村人口	11万8097 人	65歳以上人口 (高齢化率)	36.783 人 (高齢化率 30.72 %)
利用者定員数	165 (うち短期入所15人) 人	利用者平均年齢	84.7 歳
職員数	155 人	職員数内訳	介護職 90 名 看護職 15 名
併設施設・事業	デイサービスセンター友愛野幌 居宅介護支援事業所友愛野幌、ヘルパーステーション友愛野幌、障がい福祉サービス友愛野幌		
施設のサービスの概要	『和顔愛語』をモットーに、ご利用者のみならず、地域のみなさまに、笑顔ある暮らしや喜びを感じていただけるよう、「みんなが幸せになるための福祉拠点」として進めている。		

### 発表の概要

<p><b>①取り組みの課題</b></p> <p>嬉しいこと、楽しいこと、美味しいものがある、そこに人が集まり、笑顔が溢れ、幸せな場所となる。ご利用者が生活をする特別養護老人ホームもそのような場所であることが求められている。また、その空間や時間を作るだけでなく、ご利用者にとって最も身近で大切な存在である「ご家族」を欠かすことは出来ない。しかし、新型コロナウイルスの流行による面会・外出の制限や在籍期間の短期化に伴い、ご家族を巻き込むことは容易ではない現状となっていた。</p> <p>さらに、当施設はご利用者のHOL（ハピネス・オブ・ライフ）を大切にしているが、HOLの向上に向けて、既存の面会に合わせて、ご家族と共に思い出となる嬉しい・楽しい出来事、美味しいを共有することが必要であり、そのことが思い出に繋がると考えている。</p> <p>上記の現状や考えを踏まえ、既存のサービスに合わせて、ご利用者とご家族の思い出作りとなるサービスやご家族がご利用者・施設とより繋がることが出来る取り組みを展開していく必要があると考えた。</p>	<p><b>③活動の成果と評価</b></p> <p>ペット面会は、入所契約時から「必ず早々に連れていきます。」等ご家族より言葉があり、実際に面会をする時涙を流しながらペットの名前を呼ばれていた。プリクラについても、マスク着用を解除したことに伴い、ご利用者とご家族が気軽に笑顔あるプリクラの撮影に繋がった。また、孫や曾孫と共に来苑された際に撮られているご家族が多く、世代間交流のきっかけとなった。</p> <p>記念日を過ごす場所の提供は当初、ご利用者の誕生日会をイメージして企画したものであったが、とあるご家族から結婚記念日のお祝いをしたいとのことで、子や孫、曾孫が集まり、72回目の結婚記念日のお祝いをされていた。多くのご家族から「本人を外に連れていくのは自信がないから、施設でこのようなことが出来るのは本当にありがたい、母の誕生日はまだ先だけ、必ずここでお祝いをしたい」等の言葉があった。</p> <p>グリーンフェスティバルは、事前にご家族に案内をしたことにより多くのご家族に参加していただくことが出来た。事前に関わり合いもあり、今まで疎遠だったご家族から「本人も楽しめるようであれば一緒に行きたいと思えます」と話があった。</p> <p>施設が行ったことは、案内やサービスの提供であり、各ご家族がご利用者のことを思い、考えた結果が思い出となっている。今は思い出作りの段階だが、最終的にご利用者とご家族の思い出に残った時、静苑ホームへのファン化に繋がると考える。</p>
<p><b>②具体的な取り組み</b></p> <p>新型コロナウイルスが5類に分類されたが、医療や福祉の現場においては、感染対策が必須な状況は変わらず、マスクの着用を必要とされていた。しかし、当法人では「和顔愛語」の理念の下、「笑顔あふれる暮らし」や「喜びを感じる毎日」を積極的に取り戻したいという考えから、令和6年10月よりご利用者をはじめ職員、ご家族の平時におけるマスク着用義務を、面会の再開と共に解除した。</p> <p>また、コロナ禍で失われたご利用者とご家族の思い出を取り戻すべく、以下の取り組みを令和6年度より開始した。</p> <p>①思い出プロジェクトチームの発足 嬉しい、楽しい、美味しいを感じることが出来る空間、時間、サービスを検討する為に、生活相談員、介護士、管理栄養士の多職種でチームを構成。多職種で行うことで多様なアイデアが生まれ、また、施設全体での取り組みであることを意識づけすることが出来た。</p> <p>②ペット面会の実施 ペットも家族の時代となり、正面玄関前や1階地域交流ホールでの面会を可能とした。</p> <p>③プリクラの設置 よりご家族とご利用者が気軽に写真を撮り、写真という形で思い出を残してもらいたいという思いから、1階地域交流ホールにプリクラを設置した。</p> <p>④ご家族とご利用者が一緒に記念日を過ごす場所の提供 誕生日や結婚記念日等、記念日のお祝いを家族で過ごすことができるよう、会議室を開放した。思い出作りのアクセントになる物品を用意した。</p> <p>⑤グリーンフェスティバルの実施 ご利用者・ご家族に嬉しい・楽しい・美味しいを感じていただき、また、ご利用者の支援に向けて、施設職員とご家族が共にサービスを提供できるきっかけとなるようグリーンフェスティバルを実施した。</p>	<p><b>④今後の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご利用者、ご家族の思い出に残ることが、結果として施設へのファン化に繋がると考える。現状のサービス内容の見直しを都度行い、ご利用者、ご家族の年代・価値観に合わせたものを提供することが求められる。今回の取り組みは、あくまでも施設側からの提案のみであったが、今後はご家族にも意見を伺い、どのようなことを施設に臨んでいるのかアンケートをとり、それらの内容を取り入れ、形にしていきたい。</li> <li>・また、当施設は「みんなが幸せになるための福祉拠点」を目標としている為、ファン化がご利用者やご家族だけではなく、今後、より一層地域にも広がるよう、取り組みを進めていきたい。</li> </ul> <p><b>⑤参考資料など</b> なし。</p>